

# 造園の立場から見る 土木とステークホルダーとは

「取材協力者」

酒井学氏

(株)ブレック研究所 執行役員、環境計画部門統括部長、三陸復興事務所長

「温近知新」とは「温故知新」にヒントを得て、最近の実例から学生目線で将来を展望する企画である。本企画では、2022年3月末に全ての整備事業を終えた高田松原津波復興祈念公園(以下、復興祈念公園)を対象として、プロジェクトに深く携わった方々に3回連載でインタビューし、各者が抱いている土木的視点やプロジェクトに対する考え方の共通点・違いを明らかにする。今回は、(株)ブレック研究所の酒井学氏に造園の立場から語っていただいた。

(2022年7月8日(金) オンラインにて)

## 酒井学氏と

### 復興祈念公園の関わり方

2011年4月に国土交通省が東日本大震災で被災した沿岸の全自治体に対し、「東日本大震災の被災状況に対応した市街地復興パターン概略検討業務」を発注しました。そこで当社がJVで陸前高田市の業務を受託し、私は陸前高田市が行う復興

計画策定をはじめ、さまざまな復興事業の初期検討を担当しました。陸前高田市には、国立公園や名勝に指定される高田松原を含む市営の高田松原公園がありました。発災後、公園一帯は津波によって流され、まるで海になってしまいました。住宅再建など他の事業も必要とされる中で、発災直後に実施した市民アンケートでは、7割以上の方から高田

松原を再生してほしいとの回答を得たことも踏まえ、市は松原および公園の再生を決定しました。しかし、松原を再生するためには、防潮堤を以前と同じ海岸沿いに再建する必要があり、また、高台移転により市街地として活用しないことに決まった非かさ上げ低地の土地利用も大きな課題となりました。こうした背景から、高田松原公園を再生するとともに、震災の犠牲者を追悼・鎮魂、震災の教訓の伝承などの機能を兼ね備えた高田松原・防災メモリアル公園ゾーンの整備を位置付けました。ただし、この公園は非常に大規模なものであり、震災による被害は陸前高田市だけでなく三陸沿岸全般にわたります。さらに、市は市街地再建に優先的に取り組む必要があるため、

結果的に県と市が連携し、国営の復興祈念公園の誘致を進めることになりました。

**市民が親しめる公園を造るために**

その後、国、県、市による協議検討が進められ、「祈念公園全体は岩手県が整備し、その一角に国営追悼・祈念施設を整備する」という基本的な枠組みが決まり、私は公園の基本計画策定から設計にも従事することができました。基本計画では、亡くなった方への追悼だけでなく、被災地がたくましく復興しているというメッセージを訪れた人に伝えることが大きな目的であり理念として掲げられました。よって、私が一番大切だと考えたのは、市民の思いが込められ



酒井学氏

SAKAI Manabu

1993年東京農業大学農学部造園学科卒業、同年(株)ブレック研究所入社。2011～2012年度の2カ年、陸前高田市に駐在、以降も東京と陸前高田市を行き来しながら高田松原津波復興祈念公園や陸前高田市の復興に関するさまざまな業務に従事。



写真1 上空から見た復興祈念公園と防潮堤 (写真提供：陸前高田市役所)

た公園にすることでした。震災前の高田松原公園は多くの市民に愛され、その管理への市民参加も盛んでした。高台移転などにより住宅地と公園の距離が震災前より離れてしまいましたが、市民には公園やその管理に関心を持ってほしいという思いがありました。また、公園の基本計画策定から完成まで5、6年はかかる

と想定されていたため、公園の完成前における程度市民参加の土台づくりができるのではないかと考えています。そこで、市民協働に関心があ

した。そこで、市民協働に関心があ

### コンサルタントが市民に向けてできるお手伝い

コンサルタントの仕事は、事業に関わる皆が納得できるように調

### 造園の立場から見たものづくり

整することだと考えています。例えば市の復興計画に関する市民説明会で、高さ12・5mで三面コンクリート張りの防潮堤復旧案を提示した際に、地元の高校生が「そんな防潮堤ができたなら、今までの私たちの美しい町が台無しになってしまいます」と大人に交じって発言しました。こうした発言も受けて、景観にも考慮した設計方針になり、防潮堤の裏面に土をかぶせて植栽基盤を造成し、堤内地の公園と一体化させる案が示されました。一方で、県海岸管理者から問題提起されたのは、土の

が大きいのではないかと考えています。造園は、もともとベースにあるものの理解の仕方や守り方、改善方法なども考慮して事業を進めています。その中でも私は、その場所本来の自然環境を念頭に置いたランドスケープを考えています。私自身は、土木や建築にも大きな関心はありますが、専門家ではありません。いわば「何でも屋」です。いろいろな立場の事情が理解できなければ全体の調整役のような立ち回りはできないと思います。私は行政、有識者、市民といった立場の違い、土木、建築、自然環境といった専門分野の違い、こうした違いを理解した上で、プロジェクトに関わることができるとコンサルタントを目指して仕事をしています。

(注1) 東日本大震災の犠牲者への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信のため整備された公園。(一財)公園財団(2022) 高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設 (<https://iyate-fukukokinen-park.jp/>) (参照：2022年9月21日)

(学生編集委員：松永葵、植野弘子、橋本美月、宮田比奈)